

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	熊本大学
連携大学名	九州大学
事業名	多職種連携の災害支援を担う高度医療人養成

① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超急性期～急性期の支援に加え亜急性期～慢性期で問題となる慢性疾患等を対象とした長期的視野で活動可能な医療チームを構成する多職種の人材(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、栄養士等の医療職や行政担当者等)を育成する。</li> <li>・災害時に実践的に対応する医療職とこれらを統率する行政職を育成し、チームとして派遣するシステムを構築するとともに、平時にも多職種による二次医療圏での連携の充実を図り近隣型防災拠点を整備し、さらに、九州内の広域相互支援に対応できる高度医療人を育成する。</li> <li>・本事業期間の第1期受講者25名が2021年3月修了となり、2024年4月には100名の修了者を輩出し、次の取り組みを継続的に進めることにより、災害時におけるより高度な医療支援体制の構築を推し進めていく。なお補助事業期間にとどまらず、継続的な事業として展開していく。</li> <li>①行政、中核病院、医師会等々と連携し、災害訓練への参加、防災会議への働きかけを行う。</li> <li>②災害医療支援に関する市民への啓発活動を行う。</li> <li>③災害時の新たな医療支援のモデルを構築し、その普及を図る。</li> </ul>

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H30年度	H31(2019)年度	2020年度	2021年度	2022年度
インプット ・ プロセス (投入、 入力、 活動、 行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員(3名)・検査技師(1名)・事務補佐員(3名)の配置</li> <li>・受講生(25名)募集(1月～3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師・歯科医師特化コース(10名)・医療系専門職コース(15名)受け入れ開始</li> <li>・受講生(25名)募集(1月～3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師・歯科医師特化コース(10名)・医療系専門職コース(15名)受け入れ開始</li> <li>・受講生(25名)募集(1月～3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師・歯科医師特化コース(10名)・医療系専門職コース(15名)受け入れ開始</li> <li>・受講生(25名)募集(1月～3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師・歯科医師特化コース(10名)・医療系専門職コース(15名)受け入れ開始</li> <li>・受講生(25名)募集(1月～3月)</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害医療教育研究センターを開設</li> <li>・プログラム作成着手</li> <li>・ホームページ開設</li> <li>・eラーニング環境整備</li> <li>・実習用機器の選定・調達</li> <li>・31年度受け入れ開始に向けた会議・研修会開催</li> <li>・本事業周知に向けた講演等実施</li> <li>・本事業を遂行するうえでの情報収集(被災地視察)</li> <li>・運営委員及び評価委員の選出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害医療に関する研修会開催・協力(1回)</li> <li>・被災病院研修の開催(1回)</li> <li>・災害訓練への開催・協力(1回)</li> <li>・評価委員会(中間)開催(1回)</li> <li>・市民公開講座開催(3月 1回)</li> <li>・ホームページ更新</li> <li>・eラーニングシステムへのアップ</li> <li>・受講生履修管理</li> <li>・年次報告書作成</li> <li>・次年度計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価委員会(年間)開催(1回)</li> <li>・災害医療に関する研修会開催・協力(1回)</li> <li>・被災病院研修の開催(1回)</li> <li>・災害訓練への開催・協力(1回)</li> <li>・評価委員会(中間)開催(1回)</li> <li>・市民公開講座開催(1回)</li> <li>・ホームページ更新</li> <li>・eラーニングシステムへのアップ</li> <li>・受講生履修管理</li> <li>・年次報告書作成</li> <li>・次年度計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価委員会(年間)開催(1回)</li> <li>・災害医療に関する研修会開催・協力(1回)</li> <li>・被災病院研修の開催(1回)</li> <li>・災害訓練への開催・協力(1回)</li> <li>・修了者研修会(1回)</li> <li>・評価委員会(中間)開催(1回)</li> <li>・市民公開講座開催(1回)</li> <li>・ホームページ更新</li> <li>・eラーニングシステムへのアップ</li> <li>・受講生履修管理</li> <li>・年次報告書作成</li> <li>・次年度計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価委員会(年間)開催(1回)</li> <li>・災害医療に関する研修会開催・協力(1回)</li> <li>・被災病院研修の開催(1回)</li> <li>・災害訓練への開催・協力(1回)</li> <li>・修了者研修会(1回)</li> <li>・評価委員会(中間)開催(1回)</li> <li>・市民公開講座開催(1回)</li> <li>・ホームページ更新</li> <li>・eラーニングシステムへのアップ</li> <li>・受講生履修管理</li> <li>・年次報告書作成</li> <li>・次年度計画</li> </ul>
アウトプット (結果、 出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の決定(医師・歯科医師特化コース10名・医療系専門職コース15名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の決定(医師・歯科医師特化コース10名・医療系専門職コース15名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の決定(医師・歯科医師特化コース10名・医療系専門職コース15名)</li> <li>・履修修了(25名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の決定(医師・歯科医師特化コース10名・医療系専門職コース15名)</li> <li>・履修修了(25名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の決定(医師・歯科医師特化コース10名・医療系専門職コース15名)</li> <li>・履修修了(25名)</li> </ul>
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・31年度からの開始する養成プログラム実施体制が整う</li> <li>・本事業の評価体制が図られる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画に基づく着実な取り組みと、評価・検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画に基づく着実な取り組みと、評価・検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画に基づく着実な取り組みと、評価・検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画に基づく着実な取り組みと、評価・検証</li> </ul>

アウトカム (成果、効果)	定量的なもの	専任教員3名、検査技師1名、事務補助3名を雇用し、事業の体制整備が図られる	受講生(25名)によるプログラムの開始	・高度医療人として本プログラム修了生(25名)を本院災害医療教育研究センターへ登録し、災害時におけるより高度な医療支援体制の構築が図られる	・高度医療人として本プログラム修了生(25名)を本院災害医療教育研究センターへ登録し、災害時におけるより高度な医療支援体制の構築が図られる	・高度医療人として本プログラム修了生(25名)を本院災害医療教育研究センターへ登録し、災害時におけるより高度な医療支援体制の構築が図られる
	定性的なもの	31年度より本格的な事業開始に向けた、体制整備、環境の整備が図られる	災害医療支援に関する市民への啓発活動を行うことにより、本事業の認知が深められ、事業の充実が図られる	次の取り組みを継続的に進めることにより、災害時におけるより高度な医療支援体制の認知が社会的に深まる ・行政、中核病院、医師会等々と連携し、災害訓練への参加、防災会議への働きかけ ・災害医療支援に関する市民への啓発活動 ・災害時の新たな医療支援のモデルを構築、普及	次の取り組みを継続的に進めることにより、災害時におけるより高度な医療支援体制の認知が社会的に深まる ・行政、中核病院、医師会等々と連携し、災害訓練への参加、防災会議への働きかけ ・災害医療支援に関する市民への啓発活動 ・災害時の新たな医療支援のモデルを構築、普及	次の取り組みを継続的に進めることにより、災害時におけるより高度な医療支援体制の認知が社会的に深まる ・行政、中核病院、医師会等々と連携し、災害訓練への参加、防災会議への働きかけ ・災害医療支援に関する市民への啓発活動 ・災害時の新たな医療支援のモデルを構築、普及

### ③ 推進委員会見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業の実施に当たっては、学長・病院長等のリーダーシップの下、責任体制を明確にした上で全学的な実施体制で行うこと。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。	・事業統括者を熊本医学部附属病院長、九大病院長とし、職種横断的に事業推進担当、実習コーディネーターを配置した体制で事業を展開していく。 ・事業期間終了後においても、本院に開設している熊本大学災害医療教育研究センターが核となり、継続的な取り組みを行っていく。
②	客観的なアウトプット、アウトカムを年度毎に明確にした上で、自己点検・評価や外部評価を実施し、事業の改善を行いつつ、全国の模範となる体系的な教育プログラムを展開すること。その際、本事業における多職種養成等の特性を踏まえ、履修する学生や医療従事者等が受講しやすい環境整備に配慮するとともに、修了者のキャリアパス形成につながる体制を構築すること。	・本事業の評価等については、外部評価委員会(熊本県、熊本市、医師会、歯科医師会、看護協会、薬剤師会等の団体の推薦による。)を設置し、妥当性、信頼性、客観性等の評価を行う。 ・達成目標、数値目標と評価指針に基づく評価・検証としては、プログラム参加者、プログラム実施教官、連携病院の災害医療担当部門の構成員にて行う。 ・多職種の人材を養成することから、通常業務に支障をきたすことなく受講できるよう、eラーニング充実を図るとともに、全体講義、実習についても受講可能な日程とする。 ・修了者については、災害支援医療のリーダー的役割を担うと共に、次の世代の教育的立場に置き、事業を継続していく上で中心的役割を担っていただく人材として位置づける。
③	事業の実施状況や成果等を可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学・大学病院の参考に資するよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等についても積極的に発信するなど、成果等の普及・展開に努めること	・ホームページを開設し、広く広報に努める。 ・本事業を(カリキュラムの詳細、講習の様子、活動の様子)リアルタイムにHP上にて発信することにより、プログラムの認知、普及に努める。 ・地域防災訓練、防災セミナー等へ積極的に参加していく。また、一般市民向けの災害医療に関する公開講座等を行い、認知度を深めていく。

### ④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(充実を要する点)	対応方針
実施体制において担当者がやや少なく、各担当者に負担が生じるのではないかと懸念がある。	実施体制においては、本事業の運営委員会を定期的に関係することにより、行動計画の明確性を図り、災害時医療に精通した適任者を専任として熊大に教員2名、検査技師1名、事務補佐員2名を、また九大に教員1名、事務補佐員1名を配置し、本事業が効率的に遂行できる業務体制とします。
熊本大学医学部のプログラムと九州大学歯学部プログラムについて、十分な医科歯科融合となるよう工夫が必要がある。	災害関連死の原因では肺炎が最も多く、災害医療支援において口腔機能管理が重要視される中、災害医療チームに口腔領域の専門家を組み込むことが課題である。災害医療支援実績を持つ九州大学歯学部と連携することで、①災害時に医科歯科連携による情報の共有の必要性。②DMAT、JMAT等に参画することで災害医療チームとして貢献することの必要性。③医科、歯科、保健、介護等の多職種連携を図り質の高い医療サービスを提供する必要性をより深め、実効性のある医科歯科融合となったプログラムとします。
大規模災害における医療支援の経験がある団体、DMAT、JMAT、DPATなどの教訓を学ぶようなカリキュラムが期待される。	これまでの大規模災害の経験から、災害派遣医療チームDMAT、災害医療コーディネーター制度の発足、行政機関等による災害医療体制の構築、運用の充実が図られ、「避けられた災害死」の回避に大きな貢献がありました。本事業はこれらの教訓、経験を活かし、「災害医療の歩み」、「災害医療の現場から」、「これまでの災害からの教訓・防ぎ得た災害死」といった内容を取り入れ、120時間以上(必須科目:40時間、選択必須科目:20時間以上、選択科目:60時間)のプログラムとして高度医療人を育成していきます。